

Dear地球民

第18号

1997年10月発行

編集発行

☎259-03 神奈川県足柄下郡湯河原町土肥1-7-1
湯河原町商工会内 ☎0465-63-0111

第12回

やさ国際交流

十二年目を迎えた「やさ国際交流」。今年は、ブラジル、韓国、台湾、中国、香港、マカオ、モンゴル、アメリカ合衆国の19名がホームステイにやって来ました。参加した学生は、初めて日本に来た人、何年か東京で勉強している人と様々でしたが、実際日本の家庭で日本人と一緒に生活してみて、初めて知る、文化の違いや共通点に感心したり、驚いたり... 暖かく学生をお世話して下さったホストファミリーにとっても、異文化を知る新鮮な一週間になったのではないのでしょうか。情報網の普及により、世界が近くなったといわれる今日この頃、テレビやコンピューターの画面からではなかなか伝わらない「心の国際交流」を実践してくれた、留学生とホストファミリーに、乾杯!



やさやさで全員集合。この笑顔見てください!

1997 第12回 やっさ国際交流
ホストファミリー&留学生

秋山 里花(土肥)
クリスチナ・T・ゴウベア(ブラジル)

杉山 行由(吉浜)
陳 馨馨 チン・シンシン(台湾)

二見 守彦(宮上)
アンジェリカ・フレイトス(ブラジル)

佐東 丈介(土肥)
セレンダ・ツグメッド(モンゴル)

興津 良男(真鶴)
金 鴈洙 キム・アンス(韓国)

梅原 実(宮下)
崔 允英 チェ・ユンヨン(韓国)

望月 英雄(宮下)
崔 允娥 チェ・ユナ(韓国)

前田 正義(吉浜)
李 淑嫻 リ・ソクハン(マカオ)

加藤 能巳(吉浜)
ヴィヴィアン・セキ・チェ(米国)

露木 幹雄(吉浜)
ミシェル・シバキ(ブラジル)

柳沢 克巳(吉浜)
マリステラ・サユリ・井上(ブラジル)

茂田 富士松(城堀)
金 眞禧 キム・チンヒ(韓国)

服部 壽子(土肥)
コン・クイリン(中国)

土屋 一弘(真鶴)
ステファニー・H・ラム(香港)

高杉 留美子(土肥)
安 源永 アン・ヨン(韓国)

山田 武夫(宮下)
安 容福 アン・ヨンボク(韓国)

露木 芳江(真鶴)
フェリナド・安里(ブラジル)

田代 広伸(鍛冶屋)
劉 啓徳 リウ・ケイトク(台湾)

高橋 洋子(吉浜)
ジジネイト・正代・佐藤(ブラジル)

◎第12回 やっさ国際交流スケジュール◎

7/30(水)湯河原駅にて留学生を出迎え 開講式

8/1(金)町内バス見学とやっさ踊り練習

万葉公園、昇栄堂味楽庵(和菓子作り見学)

幕山公園、真鶴岬、中川一政美術館

2(土)ゆかた、ハッピー姿で「やっさパレード」参加

3(日)吉浜海岸にて花火大会見学、親睦会

5(火)手作り料理を持ち寄って、お別れパーティー

6(水)閉講式 駅ホームで見送り

たくさんの思い出をありがとう...

.....ホストファミリーと留学生の感想文から.....

湯河原に着いた時に、大勢のみなさまから、あたたかい待遇を受けて、本当にうれしい感じをうけました。それと、私のホストファミリーは、すごいにぎやかで、いつも、いいお話しをしてもらったり、どこでも連れて行って、私のことだけではなく友達のことにも心配してくれて、とても心から感謝しています。湯河原の町も、景色がとてもいいし、住んでいる人達もすごい親切で、本当にいいホームステイでした。

やっさパレードについては、初めて私がゆかたを着て踊りをしたのが、とても楽しかったです。私の踊りは、そう上手ではありませんと思っていましたが、外から見ていたみなさんが応援してくれたので、しまいまで私は頑張りますという気持ちになりました。やっさ祭りは、すごいきれいだと思います。[シジネイア・正代・佐藤、ブラジル]

初めてでしたが、引き受けてよかったと思います。留学生の允娥（ユーナ、韓国）に色々な事を学びました。文化・習慣の違い、そして国と国との問題を知りました。この問題を話していた最後に、允娥が「日本人を個人的に知ると、皆いい人ばかりです。」と言ってくれた。この時、私は涙をこらえていましたが、心の中では悲しくて泣いていました。允娥が家に来る前は（子供がカナダに行ってから）、私は寂しくて心と体がおかしくなりました。でも、これがきっかけで、家族とは、社会とは、そして国は違っても同じ人間心が通いあえば世界が平和になると考えました。ですから私は色々勉強させていただき、この湯河原の皆さんに感謝します。2年前に引っ越してきて、湯河原の人達とふれあうことができなかつた私としては、ステキな人達と知りあえて、本当によかったと思います。その上とてもやさしくしていただいて、ありがたいと思いました。これからも、この湯河原の町を愛し、楽しく暮らすことができたらいいなあと思います。本当にありがとうございました。

[ホストファミリー、望月 五十鈴]



「上手に踊れるかなあ」 やっさパレード出発目前
左から、中国のコンさん（JET日本語学校）
マカオの李さん（河合塾国際教育センター）
韓国の金アンズーさん（早稲田大学）



町内見学の日は猛暑でした。これも、いい思い出。真鶴岬にて

湯河原での私のホームステイは、『本当の意味での文化と生活様式を学ぶ経験』と断言できます。私がこう言い切れるのは、この8日間、単に湯河原が珍しかったという一握りの思い出以上のものがあったからです。これらの思い出はロサンゼルス家に帰っても胸に抱き続けられ、愛を持って形作られるでしょう。私に特別な滞在をさせてくれた高橋さんご家族、中村さん、竹林さん、スケジュール多忙な中、時間を作ってくれてありがとうございました。最後に、私を親身にお世話してくださったこと、そして家族の一員のように感じさせてくれたことに対し、私のホームステイ先の加藤さんご一家に、最大限の愛と感謝を捧げます。 [ヴィヴィアン・セキ・チエ、米国]

不安と期待でドキドキしながら待っていた私に、ニッコリ笑って手を振ってくれたサユリ。「どんな一週間になるのかなあ」なんて思っていたのに、あっと言う間に過ぎてしまい、なんだか物足りないような気がします。小さいながらも、娘がなにか感じてくれるものがあれば、と参加させていただいたのに、私自身が夢中になってしまった一週間でした。また、私にベッタリの娘は、皆さんの中に慣れたこと、我慢することを、ほんのチョットだけですが覚えたのではないかと思います。きっといつかブラジルに行きたい。そんな気持ちになりました。そして、またいつか会えることを信じています。参加させていただいて本当に良かった。—みなさんに... OBRIGADA(ありがとう)—

[ホストファミリー、柳沢 かおり]

湯河原に引っ越して来て4年になりますが、育児に追われ、湯河原町のことや場所もよく知らず、友達もない生活をしていました。このままではイヤダ！と思いホームステイの受け入れを申し込みました。1カ月位前から、ドキドキして落ち着かない日が続きましたが、駅で学生の方を待っている時は、恋人を待つ女の子の気分で、自分の名前を見つけて走って来てくれた陳さん(台湾)を見た時は、うれしいやら感動やらで思わず涙が出そうになりました。陳さんは、社宅で狭い我が家にもかかわらず、文句も言わず私の家事の手伝いや、子供の世話を気持ち良くしてくれて、本当にありがたく思っています。主人は仕事が忙しく、私は運転が出来ないので、いろいろな所に連れて行ってあげられず、近所へ散歩したり料理を作ったり、家で過ごすことが多くて、彼女にとって満足した一週間を送れたかどうか少し不安です。でも、こういう生活をしている家族もいるんだなと、何か心の中に思ってくれていればいいと思っています。ホームの入居者(有料老人ホーム)も、会う度にニコニコした顔で挨拶をしてくれる彼女を、こころよく仲間に加えてくれ、私達家族同様やさしく接してくれた事が、とてもうれしかったです。大学受験を目指して頑張っている彼女に、楽しい夏の思い出をプレゼントできたことと確信し、私達家族にも、すばらしい友達をプレゼントしてくれたことを感謝しています。

[ホストファミリー、杉山 めぐみ]

はじめに湯河原の駅に着いた時は、ただの日本の普通のいなかだと思った。しかし期待したより周りの環境がすごく美しく、平和的な所だったので、びっくりした。また、もっと印象的だったのは、住民たちのあたたかい心だったのである。一年前に日本に来てから、受験勉強、アルバイトで、一年間大変忙しかった。そして、冷たかった東京の人、さびしかった一人暮らしをした私にとっての、この八日間は、大変幸せだったのである。また、今まで考えてきた日本人への悪かった思いがなくなるようになった。私は、産んでくれただけでなく、国が同じではなくても、親の愛は同じなのを感じた。一年の中で八日間の、大変短かったが、いつよりも幸せだったホームステイは、一生忘れられない思いで残ると思う。

[安 源永 - アン・ワヨン、韓国]

セレンゲは、家族の写真を持って来ませんでした。なぜかというと、モンゴルに住んでいる日本人は、多くの方がわがままで高慢だそうです。そのような日本人は写真など見たくないと思ったそうです。モンゴルの人には、日本人を誤解し、現実にそのような日本人がいることを悲しく思いました。『モンゴル』で思うことは、ゲルに住む遊牧民です。テレビでの紹介は、すべてそれです。私達もまたモンゴルを正しく理解していませんでした。このホームステイで、モンゴルと日本の間が、少しでも近くなったと思っています。グッドバイパーティーでのセレンゲのサンドイッチは、朝食に作るそうです。家の中でゆっくりすることが好きなセレンゲでしたが、日本の事をたくさん吸収して、モンゴルで話してくれることと思います。

[ホストファミリー、佐東 丈介]



一見、おっとりのんびりしているけれど、いざ泳ぐとキリリ!!さすが全国大会2位の実力を見せてくれたヨンポ(韓国)でした。皆より一足先に帰りましたが、顔も似ていて、我が家の本当の家族のようで、不思議な気がしました。食事も初めのうちは、私も必死で韓国料理を作りましたが、そのうち、「みそ汁0.K.」「おじや0.K.」「天プラうどん0.K.」という事がわかり、ぐっと楽になりました。印象的な事といえば、弁慶の人形を見て、「サムライについて聞きたい。それから日本の歴史について教えてほしい。」と言われ、私は、日本は今まで韓国に色々ひどい事をしたことを詫びました。すると彼は、「そんな事、ちっとも気にしない。僕は日本が好きだ。」と言った事などです。そして、来年は大学を休んで「軍隊」に2年間行くということも「心にずしん」ときた一言でした。

[ホストファミリー、山田 明美]

今回初めてホストファミリーを体験しました。私の家庭は、子供達は片親で、私は商売をやっているため、随分不安な感じでしたが、いざ受け入れてみたら、同じブラジルの留学生を受け入れているご家族の方々から、「明日はミシュレはどうしますか?今日は予定はどうですか?」との電話を毎日いただき、非常にありがたかったです。毎日が忙しく、ミシュレに対しては全く何もしてあげられなかったのが心残りです。しかし、そのことに対して、彼女は気にしている様子もなく、「あぁ、この子は良くできている子だな」と感心しました。日本語もできない、英語もあまりできないとのことでしたが、日々の会話も何不自由なく、身振り手振りでうまくコミュニケーションが取れました。何よりの収穫は、子供達が、他人に対して、よその国から来た人に対して、なんて面倒見がいいんだろうと実感したことです。日々の暮らしの中で、他人に対してこんなに事細やかにやっているなんて、見たこともなかったので、我ながら感心しております。またいつか、このような素晴らしい体験を、家族全員でしたいと思っています。

[ホストファミリー、露木 幹雄]

あしたは帰る。あした!あしたの夜はひとりぼっちになっちゃう。信じられない。もう八日がこんなに早く... あっと言う間に行っちゃった。まるで夢のような一週間だった。今まで知らなかった外国人を、娘のようにあたたかくしてくれた、お母さんとお父さんに、本当に感謝している。これこそ人間のゆとりかしら。今、頭の中は、いろんな思い出で一杯なんだけど、思い出より、お母さんとお父さんに教えてもらった、人生のヒミツについて書きたい。どうやったら人生の意味や楽しみをもっと深くするか... その秘密をここで見つけた。自分の人生をもっと明るくする、その秘密を... この八日間には、楽しみ、思い出以上の何かがある。絶対に忘れられないだろう。今年のツキは私の味方!

[崔 允英 - 최允영、韓国]





— どうして、こんなにきれいな音色が出るの？ —
 お琴の徳田先生の説明に、熱心に聞き入る留学生たち
 | グッドバイ・パーティーにて |

この度、「国際交流の受け入れをして下さい」と、突然のお話があり、家族会議の結果お引き受けすることになりました。娘が香港好きのため、香港よりのラム・ステファニーさんを引き受け、一人、娘が増え、この一週間は大賑わいで、大変楽しく過ごさせて頂きました。彼女はとても勉強家で、日本の事を一生懸命メモに取り、わからない事は主人や娘に納得するまで聞き、余りの熱心さに心を打たれました。また香港の料理も何度か作って御馳走してくれました。我が家に香港料理のレシピが何点か増えました。ごちそう様、ステファニー！おいしい料理をありがとう！明日は帰途につく... 一人、娘を旅に出すような気持ちで、胸が一杯でございます。お元気で、ステファニー。またお会いできることを楽しみに！

[ホストファミリー、土屋 節子]

楽しかったグッドバイパーティー

8月5日夜催された、グッドバイパーティー。ホストファミリー、留学生の手作り料理で、テーブルは一杯。今回は、町内の有志の方々が、ボランティアで日本の伝統芸能を披露してくださいました。皆を楽しませてくれたのは、福田啓子先生の生け花実演、徳田則子先生の「六段」ほか美しい箏曲の調べ、民謡かもめ会有志による三味線、服部壽子さんの新日本舞踊、湯河原ばやし宮下保存会による勇壮な太鼓とお囃子です。留学生にとっても、ホストファミリーにとっても、より印象的な一夜になったことでしょう。

続いて、アメリカのヴィヴィアンさんの和太鼓、モンゴルのセレンゲさんが描いた民族衣装の絵の披露、香港のステファニーさんのハーモニカ伴奏で、台湾、中国、マカオ混成チームによる中国語バージョン「螢の光」の合唱。ステファニーさん作詞作曲の、湯河原の思い出を綴った歌も感動的でした。韓国チームは愉快的な歌を披露。アリラン、釜山港へ帰れ、やっさ踊りのメドレーを、練習を重ねたユニークな振り付け入りの熱演で、声援もしきり。ブラジル人研修生は、サンバ！あのリズム感、生まれながらのものなのでしょう。最後には、ホストファミリーやスタッフを巻き込んでの大きな輪になりました。楽しい思い出を胸に、「世界はひとつ」を強く感じたひと時でした。

情報化時代への回想記



今や情報は、世界から宇宙までを駆け巡る時代となりつつある。新聞、雑誌などのメディアのすべて、大企業から個人までの連絡手段まで、電話、コンピューターの普及ぶりには目を見張るものがある。

特に、コンピューターのインターネットによるネットワークは、言葉、映像、音楽までが世界中に流れている。これは、機器の進歩と、ソフトの応用技術の結果であることは言うまでもないが、ソフトの面では、アメリカが断然トップであることは、紛れもない事実である。やがて時代は、コンピューターがすべてのメディアを制するのではないだろうか。

朝日新聞の天声人語(H.9年8月8日)に、情報化時代を象徴するビッグな記事が出ていた。マイクロソフト社がその9割を占める基本ソフト「ウィンドウズ群」と、それに対抗してきたリンゴのマークで、日本ではマック(マッキントッシュ)としてこよなく愛する(アップル信者)に人気があった。しかし、アップル社の収支が悪化し、とうとうマイクロソフト社の支援を受けることになった。もともとパソコンの元祖はアップル社だった。1967年、カリフォルニアの若者たちが、実家のガレージで作ったのが第一号。元ヒッピーも創業者の一人だった。80年、大型コンピューターの雄IBMがパソコン市場に加わったとき、アップルは「ようこそIBM」という新聞広告を出したのも有名な話である。そのマックが「大きいことはいいことだ」の世の中に呑み込まれてしまうのだろうか。素人には想像しがたい。

閑話休題

さて本題は、以上のニュースではなく、回想記へとすすめるのが、今回の趣旨である。八月は太平洋戦争の終結を記念すべき月である。反省を込めて、いろいろの記事が目立つ。作家故司馬遼太郎氏には、多くの銘記すべき言葉がある。その中で、日本の敗因は、情報の徹底的な欠如によると指摘されている。戦争に参加した者には、うなずけるものがある。そこで二題をピックアップして、体験からその欠如ぶりをご紹介してみたい。

〔その1〕「ハロー・エブリバディー」40年のキャリアを持つ英語教師J・B・ハリスさんの登場である。ラジオの「大学受験ラジオ講座」でおなじみの先生の歴史が、サンケイ新聞の、話の肖像画の欄で連続紹介されていた。

彼は日本国籍を持つ、れっきとした日本人なのである。「戦前から、もう60年以上も日本人です。天皇陛下の兵隊として4年間戦争に行きました」と述べている。父は英国人でロンドンタイムスの特派員、母は千葉県出身の日本人だった。言葉は、父からキングズ・イングリッシュを、母からは日本語を受け継いだ。昭和8年父を亡くし、生活に困り、ジャパン・タイムズに就職し家計を助けた。勿論、記者生活のスタートは厳しいもので、苦労の連続だったが、それに耐えて少しずつの進歩をし、やがてハリスの署名入りの記事も書けるようになった。

入社7～8年後に中堅社員となったころ、第二次世界大戦、日米開戦を迎えることになり、外国人記者は、全員憲兵隊に連行された。彼は、新聞を発行しなければならず、一面トップの記事に、今もジャパン・タイムズ社史に残る「Warison」(戦争始まる)7文字見出しを残したが、この日を境に彼の人生も激変した。つまり、彼にも憲兵隊が来て、逮捕連行されそうになった。しかし、お母さんが必死になって彼が日本国籍であることを説明し、その場はおさまったが、日本兵としての召集令状が碧い眼をした彼に届き、ここに毛色の変った日本兵が生まれたのである。まじめな兵隊として、彼は4年間も北支に駐屯し、終戦を迎えたのだ。その数奇な運命をたどった彼も今や80歳を迎え、今もかくしゃくとして活躍をされている。

[その2] これは私の軍隊での話である。入隊の日に身体検査があり、いろいろの測定をされたが、その時に立ち会った一人の衛生兵の物語である。名前は赤谷源三氏、最後はチリ大使として活躍され、若くして夭逝された。

彼は英国のケンブリッジ大学出身の、今風に言うならば超インテリジェントだった。ところが、彼には幹部候補生になる資格が無かった。ただ、外国の大学出という理由だけで差別をされたのだ。しかし、彼はひるむことなく、超然とした態度で、一人の衛生兵として任務を全うした。

終戦は1945年8月15日、その5日前に彼は連隊から姿を消したが、それを知っていたのは連隊長だけだった。おそらく日本のポツダム条約の無条件受諾の報を受け、外務省の依頼により、彼の早めのリタイヤーが実現したものである。9月30日、連合軍の総司令官マッカーサー元帥が厚木飛行場に降り立った。例の独特のスタイルでコーンパイプを口にくわえ、タラップを静かに降り立ったシーンは、今でも眼に焼き付いている。その時、日本側の出迎えの重光外務大臣ならびに陸軍、海軍、その他外務省のお歴々の通訳官として、彼の姿があったのである。初めて彼の名誉回復の栄光ある姿をニュース映画の画面で知った時、なぜか私は自分のことのように嬉しかった。戦争終了と同時に日本の運命が変わったが、彼の人生も、初めて力を発揮する機会を得たのである。

さて、私はここで2人の数奇な運命を語るのが目的ではない。先にも述べたように、日本という国は、もともと情報についての関心が薄いのではないか、苦しいときの神頼み的な面がある。特に軍にはその傾向が強かった。テーマを回想記としたのは、当時の軍は、情報という言葉が無視した数々の実例が、多くの歴史家によって語られている。つまり、独りよがりの、差別意識の激しい考え方が、結末として日本の敗北につながった。2人の有能なインテリゲンチャーを活用する方法があったのに拘わらず、普通の兵隊として無駄な年月を過ごさせてしまったのは、痛恨の極みであると言えよう。

冒頭に述べた例のように、情報化時代の激変の時代、コンピューター・ソフトがなければただの箱と言われているが、アメリカのソフトに一方的に巻き込まれるままに終わることのないよう祈るや切である。日本の未来への展望を開くことの出来るのは、グローバルセンスをもつ次代の若者だけだ。

(石井 宏樹)

【活動報告】

第4回国際交流フォト展 '96 11/17~21 於:町立図書館

昨年やっさ国際交流の楽しい生活風景が勢揃い。

「地球民賞」に、山田明美さんの「初めての海(モンゴルの少女ゾラ)」、「国際交流賞」に梅原志げ子さんの「韓国の仲よし3人娘と日本のお母さん」、ほか22の力作が入選しました。

オーストラリア、ポートスチーブンス写真展も同時開催。

'96クリスマス会...

12月22日夜、スタジオ千夢にて。会員が集い、賑やかな夜を過ごしました。

募金協力

ジャズサミット'96会場に於ける募金 ¥11,916 並びに、クリスマス会のチャリティーオークション売上金 ¥48,000 を下記へ募金いたしました。

ダルニー基金(タイ国児童への奨学金3名分)..... ¥30,000

シャプラニール=市民による海外協力の会..... ¥10,000

ネパール教育支援の会..... ¥10,000

日本ユニセフ協会..... ¥9,916

国際理解講座

6月4日、平成9年度通常総会に引き続き、開催。ブラジルにサッカー留学の経験をもつ、秦野市の久保田貴さんをお招きし、ブラジルの文化や生活、日伯両国の人々の考え方の違いについて、興味深いお話を伺いました。

外国語講座開催中

英語(隔週火曜日)... スーザン・フェイナー先生

中国語(土曜日)..... 李平(リヘイ)先生 各講座とも9月より開講中



オーストラリアの皆さんとのホームステイ交流<2泊3日>

ホストファミリー募集

主催 ポートスチーブンス親善交流の集い・協賛 町及び関係団体

オーストラリアのポートスチーブンスの皆さんが親善交流の一環として当町を訪れることになりました。短期間ながらも、ホームステイを通じ互いの文化や習慣に触れ親善を深めていただくことを目的としています。ぜひ、お気軽にご応募下さい。

期間 12月15日(月)午後6時着~17日(水)午前8時発 <2泊3日>

訪問団 ネルソンベイ中高校学生 19名(内 13~17歳18名 9歳1名 ・ 女子16名 男子3名)

ポートスチーブンス代表者他成 22名(内 ご夫婦5組) 合計41名

募集家庭 30~32家庭

ホストファミリーにお願いすること

期間中の宿泊と食事の提供、送迎、レセプションへの参加

その他 *これまでの経験談から言葉がわからなくても大丈夫です。

*食事や生活について普段のように迎えていただければ結構です。

申込み 受け入れご希望の方は、11月7日(金)までに下記へ申込書をご提出下さい。

ゆがわら国際交流協会事務局(商工会内 会館1階) 電話63-0111